

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくなる。忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。

ルカによる福音書21:14～19

【説教要旨】

世は終わりになり、イエス・キリストが再び来て、世を裁くという初代教会に強い終末信仰がありました。

まさに今の時代の動きをみるとき、初代教会の終末信仰は、私たちに待望があるのではないのでしょうか。

世界が、弱いものが虐げられ、強いものが勝ちということが強めていることを感じ、認識しています。今の時代は、まず相手のことなど考えずに、自分の利益を一方的に主張します。それが国家でも同じです。アメリカ第一という経済施策を力で行うトランプ大統領であり、ウクライナを自国の領土といって侵略するロシアのプーチン大統領のであり、アジア、世界を侵略する中国の習近平国家主席です。国だけでなく、個人でも拡大しているのです。エゴが丸出しになって、ますます弱い人が切り捨てられていく。イエスさまが教えられた世界が遠くさっていく思いが強くなります。

そういうとき、「終末」、終わりの時がきて、はっきりと神が裁いてくれる「終末待望」が生まれてきます。

真面目な牧師であればあるほど、イエスさまが教えてくださった世界という現実をどうにかしなくてはならないと終末信仰の待望が強くなっています。

実際、終末信仰の強い一人の若いルーテル牧師さんが、ルーテル教会から去っていきました。終末、再臨によって生き辛さを一気に解決できるのではないかと思うのは至極当然であると思います。しかし、本当にそれが私たちのルーテル教会の姿かという点と違うのではないのでしょうか。

イエスさまは、終末に際して、「**忍耐によって、あなたがたの命を勝ち取りなさい**」といわれます。パウロの書簡の中にも、黙示録も、迫害からくる艱難にあった当時の教会の状況が反映されています。ここを超えるのは忍耐であると教えています。

「ここに聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である。」（黙示録 13：10）

決してスムーズにはいくとは限らない私たちの人生に必要なことを聖書は、忍耐ということが大切であると言います。忍耐は、信仰、愛、希望と並ぶ聖書の大切な言葉です。忍耐は我慢する、辛抱するということですが、しかし、聖書においては、忍耐は、それ以上のものがあります。忍耐に、待つということが加わります。忍耐はただ我慢する、辛抱するということだけでなく、待ちつつ耐える、耐えつつ待つという単に待つということだけでなく、待つ先には希望です。希望をもって、忍耐して待つということです。

パウロが生きた時代、教会が広がっていた当時の教会は、迫害の中にあり、常に信じることは死と向かい合わせでありました。その不安は深刻さを増していきました。しかし、どうして教会はローマ社会に広がっていったのでしょうか。未来が閉ざされていく中でもなぜ忍耐し、希望を持つことができたのでしょうか。「**望みをいだいて喜び、艱難に耐え**」、「**すべてを望み、すべてを耐え**」、「**艱難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出す。そして希望は失望に終わることはない**」と言い切ることができたのでしょうか。

しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならないとイエスさまのお言葉への信仰、信頼につきます。

佐藤敏夫牧師は、『忍耐について』という本の中で、書かれています。「(未来への) 真の信頼はわれわれの未来が神の支配の下にあるというところからくる。その時、われわれは、われわれの未来に何が待っていようとも、すべてを神のみ手に委ねることができる。たとえ神がわれわれの願望とは違ったふうに我々の未来を規定しようとも、われわれは神に信頼し、神の決定を受け入れることができる。このようにしてわれわれは信仰によってあの不安を克服することができるのである」。

だから、イエスさまの譬はユーモアをもって私たちに語ってください。「中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない。」

確かに今の時代、世界が弱肉強食の傾向を強めている現実には私たちは苦しめられています。相手のことなど考えずに、自分の利益を一方的に主張している私たちが、世界が、私たち自身を、世界を苦しめ、今に、未来に希望を持ちえない現実がありますが、私たち一人一人は私たちの内にある力によって未来があるのでなく、神の支配、愛のうちに未来があるのです。

私たちが歩んできたこの一年も神の支配（愛の支配）の内にありました。新しい年に私たちは不安をいだいているかもしれませんが、来る年も神の支配にあることを信頼して「**忍耐によって、あなたがたの命を勝ち取りなさい**」という主イエス・キリストのお言葉をしっかりと受け止めていきましょう。佐藤優氏は、この時代を超えることに面白いことを言っています。「人間が神について考えるのではなく、神の言うことを虚心坦懐に聞くことです。……神の再発見です。近代的な知性の限界をどう捉えるかという問題です。宗教学でなく神学（信仰）が大切です」。ルターの有名な言葉をもって結びます。「たとえ、明日が終わりであっても、今日リンゴの苗を植える。」、希望をもって先へ一歩踏み出しましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

信仰の朋から、映画『ボンヘッファー ヒトラーを暗殺しようとした牧師』を観て来というメールをいただいた。



「暗いトーンで始まる幼少期の自宅屋敷、ドイツの灰色の空、青暗い夜景。すべてが憎悪のナチ時代を象徴するような映像です。

苦悩の中にありつつ、「悪の前の沈黙は悪であり、神の前では罪である」という自らの信条に忠実に生きた背景には主の御言葉の支えがありました。・・・そして、ヒトラー暗殺計画が失敗し逮捕・投獄・処刑と流れていきます。・・・総じて、真にキリストに出会い、キリストに倣ったボンヘッファーの人生を描いたと言えるでしょう。とても良い映画です。

ただ惜しむらくは、ラストシーンでニーメラー牧師の懺悔＝ルーテル教会の自己批判が出て来ますが、肝心のバルメン宣言という言葉が出て来ないのは消化不良でした。

つまり、悔い改めはあっても希望の光がない状態、イエスが十字架で死んで復活せずにおしまいというイメージですね。」

今の時代だから私は観たい映画だと思いました。

園長・瞑想？迷走記

「木登り」について、書いたら、柴田愛子さんから、メールの返信をいただきました。

「子どもは木登りが好きです。



登るときには、観察して、ほぼいけるという自信も持ってチャレンジします。

チャレンジが子どもの育つ力。

自分で決めてチャレンジしたことには、子ども自身が責任を持ちます。大怪我にならないことも大事ですが、おとなの安心安全の中で育てられると、チャレンジしない、心がわくわくしない子どもになってしまいます。子どもの年齢にもよりますけどね。最近、安心安全の管理の下、子どもの心の育ちが萎えているように感じます。

本来、子どもはおとなをハラハラさせながら育っていくのではないのでしょうか？

余計なおしゃべり失礼！ あいこ」

私が子どもの時、大人をハラハラさせ、怒られながら育ったものです。そんな幼稚園を創りたいと思います。

日毎の糧

聖書：【賛歌。】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって／主は救いの御業を果たされた

詩編98：1



ルターの言葉から

愛する神のもとで支えられていることをわたしは確信している。（卓上語録より）

信仰に先立ち、いかなる神学思想をもこえる

詩篇93，96篇と共通の詩句が多いこの詩篇だが、しかし、独自の信仰を私たちに伝えてくれる。

「本詩が第二イザヤの救済預言を下図に用いて編まれてことは、すでに指摘した。ところが、本詩は第二イザヤにみられない重要語一つあらわれる。一節で『不思議なみ業』と訳したニフラオートがそれである。つねに複数形で用いられるこの語は、同語根の名詞ベレと同じく、人間の経験が及ばない『驚くべき出来事』を指す。本詩はヤハウエによる『救い』（2節、3節）をまずはこの語によって言い表す（詩篇の思想と信仰IV 月本照男 新教出版」と月本照男氏が解釈したように、私たち人がなす業は、コヘレトが言うようにいまあったことは昔もあった。しかし、「主の驚くべき御業（驚くべき出来事）」こそ人間の経験が及ばない救いの出来事であり、新しい歌をもって喜ぶことである。讃美歌、「善き力に守られて」を作詞したディートリッヒ・ボンフェッファーは、ヒットラーの暗黒の時代を生きつつ、信仰において忠実でありました。「苦悩の中でありつつ、『悪の前の沈黙は悪であり、神の前では罪である』という自らの信条に忠実に生きた背景には主の御言葉の支えがありました。」彼は、人間の経験が及ばない「驚くべき出来事」の中で、再臨待望が強く感じる暗い闇の時代にあっても「善き力に守られて」という神の新しい言葉をつたえたのです。

祈り：主よ、苦しむときも新しき神の御業を見る者としてください。

甘木通信

葬儀依頼書の中の
愛唱聖句と愛唱讃美歌
、 私に送られたメー
ル。「洗礼を受け、教
会に通うようになって

1. 愛唱聖句 (好きな聖句、葬儀で読んでほしい聖句など。その理由)

詩篇 第23篇

ルカ第五章 5節「然れど御言に
(前日の葉板機伊の
のおかしかう) したかひて網を下さん

2. 愛唱讃美歌

讃美歌 301 (山べにおかいて) 496 (うかれの白百合) 122 (みどりもふかし)

も、心を騒がせ、苦悩することが少なくなったわけではありません。仕事のこと、家庭のこと、家族や私自身の病気など、悩みは今も続いています。うつになって仕事以外は外出もあまりできず教会をお休みしたこともあります。世の中人々や教会員の皆様には、もっとずっと深い苦悩や悲しみを抱えた方々がいらっしゃることは解っていても、心弱くなってしまっていました。そんな時、いつも思い出すのは藤井先生のお説教の一節です。ある人が苦難の末、今まで過ごしてきた人生を振り返ってみると、砂浜のようなところが続き、そこに点々と一人の足跡がついていました。『私はやはり自分一人でこの苦難を抱えて歩いてきたのだ』とその人がつぶやくと主イエスが現れ、『あの足跡は私です。私はあなたをおぶってずっとこの道をきたのですよ』と言われたというものでした。苦難の時こそ主がよりそっていてくださる、というお説教でした。」(M姉の証)

信仰者の人生は、苦難の時こそ主がよりそっていてくださると信頼し、「しかれど み言葉に 従ひて 生きなん」という「しかれど」という状況で、彼女の家の門の前に何度祈ったことだろうか。そんな思い出に励まされつつ葬儀のときを持てたことを感謝。私は老いて増々、そう思うようになっている。

(甘木日記)土) インフルエンザから回復したが、前任地の大森教会主管牧師、海外出張の為に代わって葬儀説教を頼まれ、準備する。日) 明日の葬儀説教のために礼拝後、すぐに東京に向かう。夜、礼拝堂に行き、祈る。月) 早朝、会堂で祈り、午後から葬儀。火) 早朝、4時半に羽田に向かい、久留米に着くと幼稚園に。夜、東京から相撲を見に来た友人と博多で夕食。水) 大学病院で検査。薬が減らされてほっと。運営委員会の準備をしていると2時。木) 午前中、松崎保育園。職員と聖書を学び、園児と礼拝できた幸いを味合う。午後から委員会。金) 久しぶりに幼稚園の門に最後まで立って園児を迎えられた。時はあっと過ぎていった。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
ぐちらない聖人（牧師）もいます。



土）インフルエンザからやっと回復した。前任地の
大森教会主管牧師が海外出張の為に、代わって葬儀
説教を依頼された。説教の準備しながら交わした
メール中に召天者の方の「証」が見つかった。

「洗礼を受け、教会に通うようになって、心を騒
がせ、苦悩することが少なくなったわけではありません。仕事のこと、家庭のこと、家族や私自身の病
気など、悩みは今も続いています。」と、そんな中
で、祈りをMさんと与えられた。日）礼拝が終わ

（玄関の菊の花）り、葬儀説教のためにすぐに東京に向かう。そんなとき

にインドネシアに帰国するA君が訪ねてくれたと
いう写真を信徒さんが送ってきてくれた。3年間の
日々は楽しかった。帰国されて再度、大学に入り
なおす。頑張れ。東京に着き、夜、礼拝堂に行
き、お棺の中におられるMさんと祈る。月）早朝
会堂に行き、Mさんと祈る。午後から葬儀、茶毘
にふす。家内と女性会の方々が会堂を掃除してく
ださっている。夜、信徒さんと食事。久しぶりに
味を感じる。病気も回復しつつある。今回も多く
の信徒さんに支えられて葬儀が行えた。感謝。火
ホテルの前のバス停から4時半に羽田に向かう。



久留米に着くと荷を解き、幼稚園に。夜、東京から **（インドネシアの朋）**

大相撲を見に来た友人と博多で夕食。水）大学病院で検査。脳のCT検
査の結果は白質あるもの、老人性で大丈夫。肝臓のCT検査は病変が小
さくなっていて、胆嚢の滓胆泥も極端に減る。炎症【crp】も低くなり、
抗生剤がなくなり、ほっと。食欲、味が戻ってきている。幼稚園の庭の
花の準備をする。菊を買いにいくが、菊らしい菊はなし。時代かな。三
色すみれを購入。春の準備。運営委員会の資料準備をしていると2時。

木）午前中、松崎保育園。職員と聖書を学び、園児と礼拝できた幸いを
味合う。午後から日善幼稚園運営委員会。金）久
しぶりに幼稚園の門に最後まで立って園児を迎え
られた。時はあっと過ぎていった。羽村幼稚園の
件で本部と打ち合わせ。良き道が開けますよう
に。印刷機の調子が悪く、なかなか帰れない。



（春花壇のパンジー） 違うことをしよう。